

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成25年2月7日(2013.2.7)

【公開番号】特開2011-150014(P2011-150014A)

【公開日】平成23年8月4日(2011.8.4)

【年通号数】公開・登録公報2011-031

【出願番号】特願2010-9303(P2010-9303)

【国際特許分類】

G 0 3 B 21/16 (2006.01)

H 0 4 N 5/74 (2006.01)

【F I】

G 0 3 B 21/16

H 0 4 N 5/74 Z

【手続補正書】

【提出日】平成24年12月13日(2012.12.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

また、各フィルタホルダ 1 4 A , 1 4 B の正面側には、空間部を縁取りするように内側及び外側にそれぞれ展開された四角形の枠状をなすフランジ部 1 4 e が設けられている。フランジ部 1 4 e の上下方向に対向された二辺には、前方に突出する 2 つの爪受け部 2 5 , 2 5 がそれぞれ設けられている。上下 4 つの爪受け部 2 5 , 2 5 は、上下及び左右の双方向に対称であって、4 つのロック片 1 7 , 1 7 と対応する位置に配設されている。組立時、4 つの爪受け部 2 5 , 2 5 は 4 つのロック片 1 7 , 1 7 の内側にそれぞれ配置されることになり、先端の爪部 1 7 a が爪受け部 2 5 の先端にそれぞれ着脱可能に係合される

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 8】

このような構成を有するエアフィルタユニット 1 0 が着脱可能に装着されるエアフィルタ収納部 5 に臨む部位には、光源ランプや光学ユニット等を冷却するための冷却ファン 3 0 が配設されている。冷却ファン 3 0 としては、多数の羽根をもつ羽根車を回転させることにより、その回転中心側から空気を吸引して羽根の外側から接線方向に空気を吐出させるシロッコファンを用いている。この冷却ファン(シロッコファン) 3 0 は、供給口 3 1 を上方へ向けた状態でエアフィルタ収納部 5 の下面部に配置されている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 8】

このようにフィルタホルダ 1 4 A , 1 4 B が着脱されるエアフィルタユニット 1 0 の、プロジェクト装置 1 のエアフィルタ収納部 5 に対する着脱作業は、例えば、次のように行

うことができる。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００４０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００４０】

一方、プロジェクト装置１からエアフィルタユニット１０を取り出す場合は、上述した組立作業と逆の作業によって簡単に行うことができる。まず、エアフィルタ収納部５の吸気口９から格子状カバー６を取り外す。次に、ホルダケース１２に設けた２つの取手１８、１８を両手で掴み、エアフィルタユニット１０を水平方向側方に引き出すようにする。これにより、エアフィルタユニット１０をエアフィルタ収納部５から簡単に取り出すことができる。しかも、複数のエアフィルタを格納したホルダケース（カートリッジ）をエアフィルタ収納部５に対して出し入れするだけでエアフィルタの交換ができるため、エアフィルタの交換作業を極めて簡単且つ迅速に行うことができる。

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００４１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００４１】

上述したような構成を有する本願発明のプロジェクト装置１によれば、冷却ファン３０を駆動すると、冷却ファン３０の吸引力によって供給口３１に臨むエアフィルタユニット１０側が負圧になる。この冷却ファン３０の駆動により発生する負圧は、ホルダケース１２の空間部１６を経てエアフィルタ収納部５内の全体に作用し、更に、吸気口９を経て装置筐体２の外部にまで作用する。その結果、吸気口９の外に存在する空気Ｅ１の一部が、吸気口９からエアフィルタ収納部５内に入り込み、その空気Ｅ１の一部が第１の空気路４１を通り、また、その空気の残部が第２の空気路４２を通して、いずれも供給口３１側に移動する。